

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
I. 理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の方々にGHを開放し、GHを身近な存在として知って頂くことに貢献できるよう努めている。	○	近隣の方が立ち寄りやすい雰囲気を作っている。地域に自然と溶け込みながら生活していけるよう近所との関係作りにも配慮している。
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全員が見やすい場所に掲げ、その内容に従い実践できるよう努めている。	○	理念を更に具体化し、皆がわかりやすいものにしていきたい。現場で実践、生かせる内容を補足したい。
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	認知症でありながらも利用者一人一人が介護スタッフに支えられながら生き甲斐のある暮らしを見つけて生活している様子を実践を以って、理解していただくよう努めてい	○	
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内掃除などに参加し円滑な互助関係を維持している。毎日日課となっている散歩を通じて、挨拶をしたり会話をしたりしている。生活ゴミを出す時、分別し迷惑をかけないように全スタッフにて注意している。収集後の掃除をしている。	○	
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会、地域活動に参加している。地域住民の方々は散歩の時の挨拶で気軽に話しをしたりしている。名前も覚えていただき犬の散歩時には、動物とふれあい心なごむ機会もある。	○	教会の方たちがハンドベル演奏に来て下さったり、地元小中学生の授業の一環としての交流を受け入れている。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域密着推進会議の時に話し合をしている。役場での介護教室やボランティア活動があれば、進んで協力したいと申し出てい	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を掲示し、反省、改善に取り組んでいる。	○	
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	問題がある時だけでなく、今後GHはどうあるべきかなどテーマを決め、役場担当者、民生委員、家族代表、近隣代表を交えては話し合い、取り組みを行っている。	○	
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定例会議や「さんぶエリアネット」、或いは介護労働人材センター、社会福祉協議会の主催する様々な研修に参加し、スキル向上や最新の情報を得ながらよりよいケアができるよう努めている。	○	

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度としては知っているが深い知識はないので、学んでおきたい。	○	
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県主催、身体拘束防止研修基礎課程・専門課程に参加している。	○	
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を以って説明し理解して頂いている。必要があればさらに話し合いの機会をもつようにしている。	○	
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	リビングに苦情相談窓口として代表の連絡先を掲示している。利用者各居室に家族面会ノートを設置し気付いたことや感想を自由に書き込めるようにしてある。スタッフはそれを確認し、反省材料や改善に向けてのきっかけとしている。	○	「ご意見ポスト」を設置したい。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回近況をご家族に手紙で報告している。外出支援時やおたのしみ会の様子は写真にて送付し喜ばれている。	○	
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を受け止め、同じことを操返すことのないように努めている。	○	
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を設け、ケアに取り込んでいる。(毎月1回以上)	○	
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に応じて職員の協力を得ながら人員を確保している。	○	
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮を	利用者へのダメージを少なくして必要最小限に抑えるように努力している。	○	
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修に参加し研修の結果を現場に生かしている。勉強会や課題を配布し、レポートを提出することによりスタッフ間の情報交換や学びの場としている。	○	
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定例会議で同業者と交流があり、色々なテーマについて問題解決を図りながらサービスの質を向上につなげるようにしている。	○	
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	お互いに悩みを抱え込まず良い方向に考えたりアドバイスをもらうようにしている。ケアに対する悩みやストレスに助言をする。	○	
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	マニュアルを作成し、それにそって仕事の内容を把握することにより良いアイデアを出し合い楽しく仕事を覚え向上できるような心がけている。	○	

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	要望を聴きできるだけ、叶えるよう努めている。本人が納得いくまで話を聴くようにしている。	○	
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学から体験と徐々に理解していただき、十分に納得していただいた上での契約とさせて頂いている。	○	
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている事を聴きだし、なるべく希望にそうように対応している。(マッサージ)を入れたり、リクライニング車椅子。	○	
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	食器は毎日使うので、継続して使っており全員が違う茶碗やお湯のみ箸を使う。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活リハビリを兼ね、日常生活の中で出来ることを一緒にする。助け合い、支えあう関係を築いている。	○	
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築	利用者さんの事を良く知り理解し良い所を見つけ出し褒め満足感を持って頂くこと。	○	
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者さんの良い点をご家族に知らせる、悪い点をかくさずに、どのような解決方法があるが、御家族と相談する。	○	
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔のことは忘れないのでお友達や教え子さんに面会に来て頂いている。	○	
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じADLの方々が気が合うようで会話を楽しんだり一緒に出来るように努めている。	○	
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	様子を伺い電話を入れたり、近所まで行く時はお顔を拝見することもある。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活のリズムを乱さないように意向を聴き希望が叶うよう努める	○	
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去に得意だった事や、その人らしい暮らしや、大切な経験や出来る事を知りGHでの生活に生かす。	○	
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日のリズムがあり、心身状態を把握するようにつとめている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者と職員と御家族と本人と必要な関係者と相談しあい計画作成している。	○	
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成して	介護度の変更などは、現状に即した、新しい計画を作成する、利用者の実現可能な計画を立てている。	○	
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を残し、特徴や変化を具体的に記録し見直しに活かしている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の意見を受け止め、できる限り柔軟な対応に努めている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議で民生委員に参加して頂き、協力していただきながら支援している。消防訓練に参加して防災に留意しながら支援して	○	
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	情報交換をしながら、多様性をもった対応ができるようにしている。	○	
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターがまだ具体的な活動を行っていない。	○	
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関に可能な限り使っている。現在内科2ヶ所、精神科2ヶ所、眼科1ヶ所を利用している。	○	
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医療機関の担当医師は認知症に理解があり診断や治療も適切に行っている、指導や助言も受けている。	○	
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をし	看護師がドクターに問題を聴いて医療の事を詳しく日常のケアのしかたを説明して下さ	○	
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連	ご利用者の状態を情報提供して頂き、担当医師と話し合い、ホームで対応可能な状態になり次第退院できるよう手配して頂いて	○	
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化にならない方向にするように御家族や医師と相談し全員で方針を決める。重度化になる前に早い処置をお願いする。	○	
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に介護職員を増して、手厚いケアに取り組んでいる。	○	
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐこと	日常生活の様子やサマリーを作成し情報を開示している。	○	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
1. その人らしい暮らしの支援						
(1)一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉を選び傷つけないように気を配っている。個人情報は他人の目に触れるような所に、置かないようにする。	○	
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	介護計画にそってより良い方向に支援し、自己決定を尊重し、理解し納得して頂く。	○	
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で1日の流に合わせず、一人ひとりのペースに合わせて支援している。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容は、ホームに来て頂いている。	○	
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの残存機能を生かし、できる事を無理のないように一緒に手伝って頂く。	○	
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとり合わせてお酒、タバコを毎日楽しんでいる。	○	
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	誘導時に本人の自尊心を傷つけないよう配慮しながら、2時間ごとのトイレ誘導をし失敗を少なくするように努めている。	○	
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に合わせて体調と機嫌の良いころを見て入浴を楽しんで頂いている。	○	
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝の習慣やその時の体調により安心して眠れるように支援する	○	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活で出来ること花の管理や洗濯物をたたんだり、その人に合った役割を決めている。	○	
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は利用者にはお金は持っている方は、しっかりされている方2名です	○	
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLに合わせて、外食、ドライブなど出来る限り、外出を心がけている	○	
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	老人会など町内の催しなど怜家族と一緒にに行けるようにしている	○	
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙書頂いた物を職員がしている	○	
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	怜家族や友人などいつでも気軽に訪問できるようにしています	○	

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
(4)安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	何が拘束になるかその都度説明しており、身体拘束ゼロを目指す	○	
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご利用の動向を常に握できるように職員を配置しご利用者がいつでも玄関を出て行ける状態になってるし、きるよう配慮している	○	
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常にフロア全体を把握できるようにしており台所から1階全体を見渡せるようになってる	○	
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り扱いや保管場所決めて管理している。在庫管理を作り紛失しない様にしている	○	
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒は見守り、誤薬は2名で前チェックを入れている	○	
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを見やすい場所に掲示しており緊急時にはマニュアルの指示通り実行するよう指導している。	○	
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を行ない地域の人々の協力をお願いしている。	○	
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	常に御家族と連携を取り話し合っている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、顔色、血圧、体温といつもと違う様子に気付くようにしている。	○	
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、使用量等薬の情報をケースファイルに綴じていていつでも閲覧できるようになっている。症状変化を担当医師に相談し薬変更や使用量変更の指示を仰いでいる	○	
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使うよう心がけ、腹部マッサージや体操、散歩等に取り組んで頂いている。	○	
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨き、入歯の消毒などして、口の中に食べ物が残らないよううがいをする。	○	
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	下膳時に確認し残りを把握するように努めている。又不足しがちな方はチェックし記録する様にしている。	○	
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス)	感染対策指導書を参考に施設内感染を予防するマニュアルを掲示している。	○	
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限を守りかならず火を通すようにする。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組ん でいることも含 む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
80		安心して出入りできる玄 関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしてい	スロープや外廻りにゴミなどつまずがないように気配りしている。	○	
81	29	居心地のよい共用空間づ くり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよ うな工夫をしている	季節の花を飾ったり工夫している。玄関 光にはプランターに花を植え利用者に管理 して頂く。	○	
82		共用空間における一人ひ とりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同 士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士をとなりの席にして いる。	○	
83	30	居心地よく過ごせる居室 の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しなが ら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心 地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物を飾ったり、タンス など置いている。	○	
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、 温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者 の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えや温度調節はこまめの 行っている。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全 な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日レクリエーションや生活リハビリを出来る 環境を提供している。	○	
86		わかる力を活かした環境 づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自 立して暮らせるように工夫している	一人ひとりに合った残存機能を活かしつつ 自立支援をする。	○	
87		建物の外周りや空間の活 用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	外やベランダに野菜を植えたり活動してい る。	○	

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
V. サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない